

科目7

精神保健医療福祉に関連する制度とサービス

講義5-2

母子に対する多機関連携支援(事例)

【事例】 母子に対する多機関連携支援

場面設定

あなたは、Z町の保健センターに、2年前から大学卒業後すぐに勤務している保健師です。

日常の業務として、乳幼児健診を中心とした母子保健業務を担いながら、地域住民の健康相談や関係する窓口業務など幅広い業務を行っております。

多忙な毎日が続くなか、担当地区の民生委員をはじめ、地区活動の中から地域には何となく顔馴染みが増えはじめてきています。

ただ、保健センター業務以外は経験がなく、町の本庁業務や多機関連携はまだ経験が浅い状況です。

※用語説明

要対協・・・要保護児童対策地域協議会



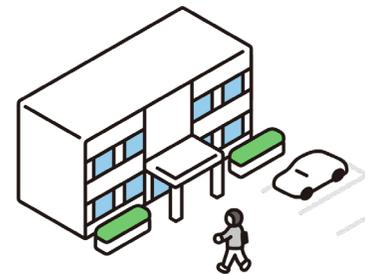
【事例】 母子に対する多機関連携支援

事例の概要

ある日、近隣住民から児童虐待の恐れがあるとのことで県の児童相談所に通告が入った。

【通告内容】

- 数年前に引っ越してきたAさん宅の三世帯
- 日中、こどもは保育園に行っている様子
- 夕方になると、頻回に母親が大きな声で怒鳴っている
- こどもが泣き始めると長時間泣き続けている
- 近所づきあいもなく、見かける母の顔は暗いように思う



通告内容をもとに、児童相談所は対象となる家庭の調査を開始

【事例】 母子に対する多機関連携支援

事例の概要

- Aさん 30代女性
夫と2歳の長女(保育園通園中)の3人暮らし。

父は親からの被虐待経験がある様子

母は精神科受診歴がある



児童相談所の受理会議

喫煙妊婦としてのフォロー歴はあるが、新生児訪問や健診での指摘はない

保育園でも最近遅刻が目立って、園の準備物も揃わないことがある

- 調査の結果、緊急性は低いものの、頻回な怒鳴り声や、長期間の泣き声、過去の父母のフォロー歴等から、要対協管理となり、状況確認と支援介入を担当地区の保健師であるあなたに支援の協力依頼が入りました。

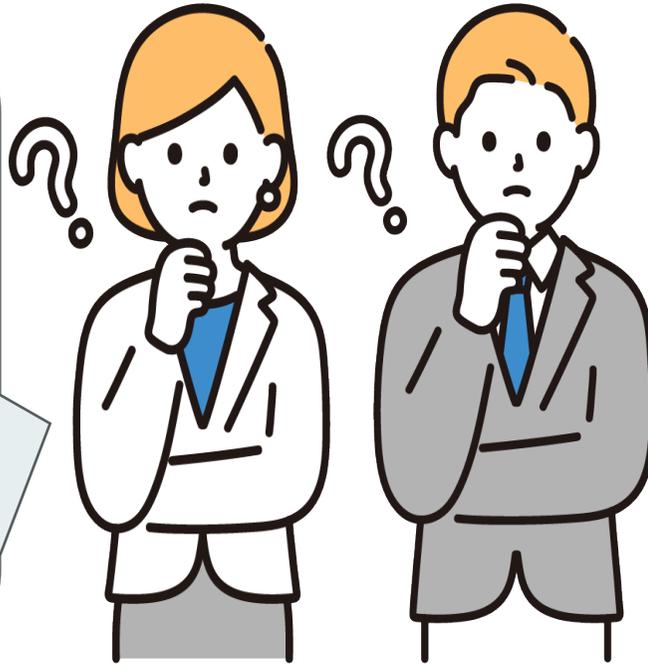
【事例】 母子に対する多機関連携支援

アセスメント

・支援協力にあたって期待されることは？

①支援対象

支援介入が必要となる課題についての状況整理



②経済状況

家族がおかれている環境に課題はないか

③社会資源

支援介入をする場合に協力可能な機関の有無

保健センターの主な業務

- ・乳幼児健診
- ・妊産婦、乳幼児などの健康相談
- ・生活習慣病予防
- ・健康相談、栄養指導
- ・精神保健福祉相談
- 等

【事例】 母子に対する多機関連携支援

アセスメント(例)

- ・ 支援協力にあたって期待されることは？

①支援対象

子
長時間泣き続ける

父
被虐待歴

母
精神科受診歴



②経済状況

経済困窮の可能性
保育園の準備物が揃わない

③社会資源

子育て支援機関
精神科医療機関

- ・ 家族支援を行うという俯瞰的な視点 = 世代・支援者を限定しない
- ・ 課題に隠れている、相談ニーズへの気付き = 多機関連携

【事例】 母子に対する多機関連携支援

新たな事実



「こどもが保育園に馴染まないのか、登園前と帰宅後にはいつも泣いているような状態で時間通りに家事もできず、イライラが溜まってしまい、つい子どもに対して大きな声を出してしまうんです…。保育園からは、言葉の遅れも指摘されていて…」

「実は疲れているのに夜眠れていないんです…」

「夫の父が一人暮らしなんですが、最近認知症の診断を受けてそのことで夫もイライラしていて…」

Aさんはどうしていいか分からず、助けを求めています。

【事例】 母子に対する多機関連携支援

課題整理

- 支援方針の立案
支援対象ごとに連携機関を検討

①支援対象

父

・介護課題

母

・精神保健課題

子

・療育課題

②経済状況

現状課題はなさそう

・経過観察

③社会資源

父

・地域包括支援センター

母

・保健センター

・地域子育て支援拠点

・精神科クリニック

子

・保育所 ・保健センター

・児童相談所(障害相談)



【事例】 母子に対する多機関連携支援

アプローチと連携

①父への関わり・連携機関

地域包括支援センター
→父の介護不安の解消

父を支援のキーパーソンに

②母への関わり・連携機関

保健センター
→精神保健相談

面接相談
必要に応じて受診動向を検討

③子への関わり・連携機関

保育園・地域子育て支援拠点
→見守りの継続、経過確認

三歳児健診で再アセスメント。必要
時は児童相談所へ障害相談を検討

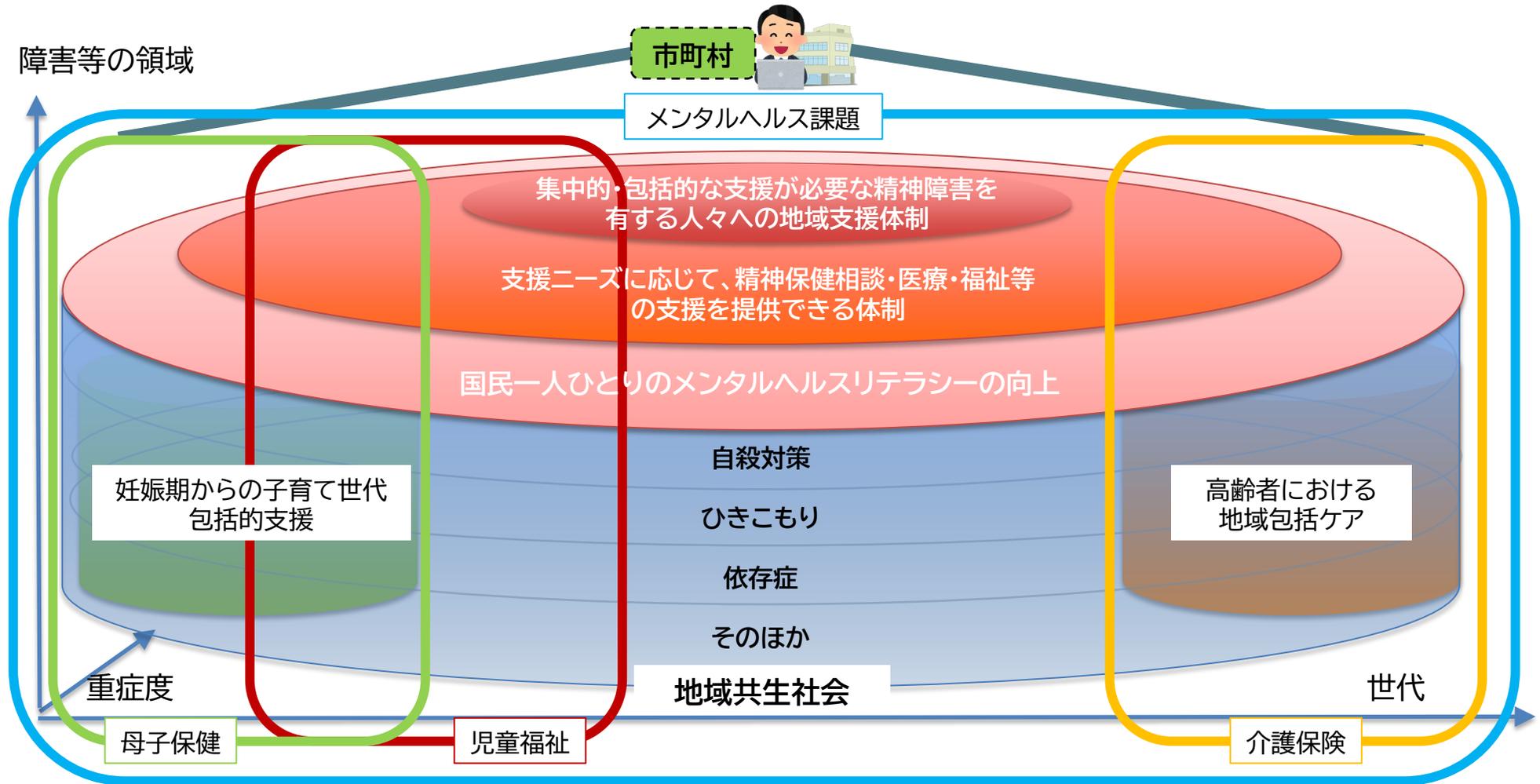
④世帯への関わり・連携機関

要対協構成機関としての役割
→関係機関連携と協働

直接支援と
関係機関による間接支援



全ての世代に渡る相談支援体制



多様な課題に対応するための多機関連携による世帯支援

講義5-2 まとめ

- 地域の相談窓口でもある、保健センターは日々の窓口相談だけではなく、多機関からの支援介入の協力要請も多い
- 所属する機関には何ができ、どの機関と連携するのか。投げっぱなしではなく関係機関との連携と協働を意識
- 相談者を孤立化させることなく伴走する姿勢
- 起きている課題だけに着目せず、メンタルヘルス課題に影響を与えている状況等、世帯全体を俯瞰的に捉え地域で支える視点が重要

ご視聴ありがとうございました。

続いて、

【講義6-1】その他の支援機関等
の動画をご覧ください。